

修学旅行先が台湾に

交流発展 生徒の国際感覚醸成へ

高 坂 高
ら 年 度 か
来 年 度 来



浜坂高（新温泉町芦屋）は来年度から修学旅行の行き先を、従来の沖縄県から台湾に変更すると決めた。同校はこれまで国際交流の一環として生徒が台湾で研修をしてきたほか、現地の高校と姉妹校提携するなどのつながりがある。今後、修学旅行を通じて交流をさらに発展させ、生徒の国際感覚を醸成させていく狙いだ。

（井上雅大）

修学旅行は、来年度の2年生を対象に10月22～25日（3泊4日）を予定。台湾南部の屏東県立東港高級中学（日本の高校に相当）の4年ぶりに実施した海外研修で姉妹校の東港高級中学を訪れた浜坂高の生徒ら＝昨年12月（浜坂高提供）

生徒と交流するほか、近くの高雄市の観光などを検討している。

台湾への修学旅行は、英語での外国人とのコミュニケーション能力を身に付けたり、国際的な視野を養うなど同校が掲げる教育方針にも合致。浜本真校長は「異文化を知り、現地の生徒たちといろいろな交流ができ

るのが最大のメリット」と話している。

同校は2017年、町の国際交流事業の一環として台湾での海外研修を開始。

19年に東港高中と姉妹校提携を結んだ段階で、台湾への修学旅行は視野に入っていたというが、直後に起こった新型コロナウイルスの感染拡大で、実施の見通しが立たなくなった。

しかし、コロナの5類移行に伴って相互交流が再開。東港高中の生徒らが昨年5月、初めて浜坂高を訪問し、同年12月には4年ぶりに浜坂高が海外研修を行った。これを受けて同校は、改めて修学旅行の実施を検討していた。

◆ ◆ ◆
今月15日には、海外研修に参加した2、3年生7人による報告会が新温泉町役場であった。生徒たちは、東港高中で現地の生徒たちと英語や体育の授業を体験したほか、屏東市などを観

光。「台湾の人たちは気さくで、すぐに打ち解けることができた」と振り返っていた。

同町も東港高中がある屏東県と交流しており、両地にある温泉を通じた新たな取り組みの実施を屏東県に働きかけている。